ISSN 1342-3932

Nagoya University Archives News

名古屋大学史資料室ニュース

http://nua.jimu.nagoya-u.ac.jp/

第 10 号

目次

京都大学大学文書館の設置 …… 2

牧島久雄氏と「牧島メモ」
―史林遍歴（5）― …… 4

受贈図書一覧 …… 6

資料室日誌抄 …… 8

名古屋大学史資料室保存資料目録と
名大史ブックレットを刊行 …… 9

築 50 年を迎えた工学部 1 号館南棟　全景と玄関（本文 3 頁参照）

京都大学
大学文書館の設置

京都大学大学文書館　助教授　西　山　　伸

はじめに

2000（平成12）年11月1日、京都大学大学文書館（以下大学文書館とする）が設置された。本稿では、大学文書館設置の経緯、目的・組織・機能、今後の展望などについて紹介したい。

大学文書館設置の経緯

京都大学において、大学文書館設置への動きが本格的に開始された契機は、2000年3月9日に百年史編集委員会から長尾真総長宛に「本学の歴史に関する史料の収集・保存・公開について（要望）」と題された文書が提出されたことであった。同文書では、『京都大学百年史』編集の過程で学内外の貴重な史料が数多く収集されたこと、それらの史料の保存・公開に加えて大学の歴史に関する研究・教育活動を行う恒久的組織が必要であること、そのような組織は大学にとって自らを点検・評価するのに不可欠なものであり、また大学の個性の認識と発展に資するものであること、などと述べられている。この編集委員会の要望書をうけて、4月4日の部局長会議において「京都大学の歴史に関する史料の収集・保存・公開等のための組織についてのワーキング・グループ」が組織されることになり、設置の必要性、組織の役割・規模などについての具体的な議論が開始されたのである。

ところで、1999年5月に行政機関の保有する情報の公開に関する法律（情報公開法）が成立し（2001年4月施行）、国立の諸機関ではこの法律にどのように対応していくかが焦眉の課題となったことは周知の事実であるが、京都大学においても1998年4月に情報公開ワーキンググループが設置されて、情報公開のあり方について検討が重ねられてきていた。そこでは、文書管理等に関する具体的な方策のほかに、保存年限が過ぎた学術的価値の高い行政文書を保存する機関の必要性についても議論され、2000年9月に出された答申では、「大学公文書館」の整備が提言されるに至った。この答申を踏まえる形で、前述の「京都大学の歴史に関する史料の収集・保存・公開等の組織についてのワーキング・グループ」は、10月24日の部局長会議において、出来るかぎり早い時期に「大学文書館」の設置が必要であるとの答申を行い、11月1日付の設置が了承されたのである。

関連規程、要項の整備

制定された「京都大学大学文書館要項」では、大学文書館の目的については「京都大学の歴史に係る各種の資料の収集、整理、保存、閲覧及び調査研究を行う」と定めている。つまり、情報公開ワーキンググループの提言にある学術的価値の高い行政文書は当然のこととして、百年史編集の過程で収集された資料を含んだ、より広い範囲の京都大学の歴史に関する資料を取り扱う対象として想定していることになる。職員としては、この目的規定に「調査研究」とあることを受けて、「教授、助教授、講師、助手及びその他の職員」を置くことを定めていて、教員を含めた専任の職員を複数配置する態勢がとれるようになっている。また、大学文書館の管理運営に関する重要事項を審議する場として、副学長、若干名の部局長、附属図書館長、大学文書館長、大学文書館の教授、事務局長などを構成員とする運営協議会を置くと定めている。なお、事務については、事務局総務部総務課が担当することになった。

一方、11月7日には、情報公開法の規定に基づき、京都大学における行政文書の分類、作成、保存に関する基準その他の行政文書の管理に関し、必要な事項について定める「京都大学における行政文書の管理に関する規程」が制定された。その第9条に「保存期間（延長された場合にあっては、延長後の保存期間とする）が満了した行政文書は、京都大学大学文書館へ移管するものとする」と規定された。この規定により、いわゆる非現用の行政文書は大学文書館が一元的に管理するようになり、文書の選別、廃棄についての権限も大学文書館が持つことになった。

さらに、上記のように定められた大学文書館への行政文書の移管について具体的に定めた「京都大学大学文書館への行政文書の移管等に関する要項」、大学文書館の利用に関して定めた「京都大学大学文書館利用要項」が2001年2月27日に制定され、4月からの本格的な業務開始のための態勢が整備されていった。

今後の業務

このような経緯により設置された大学文書館であるが、

その業務の中心に置かれなければならないのは、京都大学の歴史に関する諸資料を受入れ、整理し、閲覧に供することである。受け入れるべき資料の第一は、京都大学でこれまで生産され、また日々生産されつつある行政文書である。これらは膨大な量になることが予想され（事務局の推算では、大学文書館移管分は現状で4万ファイル前後となる）、いかにして効率よく受け入れて、整理を行うかが当面の最重要課題といえる。さらに、行政文書だけでなく大学で作成される各種の印刷物（広報誌（紙）、履修案内等の修学資料、大学概覧等の刊行物、自己点検・評価等の報告書等）も収集の対象であるので、まさにその数は巨大なものとなろう。そうなると、当然のことながら保存するスペースについても考慮されなければならない。すでに大学文書館では一定面積の書庫を確保してはいるものの、それだけでは保存が不可能なことは明らかである。このことに関しては、前述の「京都大学大学文書館要項」では分館の設置について規定している。つまり、各部局の協力のもとに、大学文書館に移管した文書の保管場所をある程度部局に確保してもらうという方法である。しかし、当面はこれでよいとしても、場所の問題は大学文書館に常につきまとう難題となるであろう。

受け入れるべき資料の第二は、百年史編集のなかで収集されてきたものをはじめとする歴史資料である。書翰、日記、ビラ等の文書資料、写真、マイクロフィルムなど数万点に及ぶ。これらの資料は、百年史の編集に利用するための仮の整理しか行っていないため、目録作成をはじめとする本格的な整理を急ぐ必要があろう。もちろん、この種の資料についても、今後も収集を継続していくことが重要である。

こうして受け入れられた資料をもとに、研究活動を行っていくことも大学文書館の業務の重要な柱となる。具体的な検討はこれからであるが、大きく言えば、文書の管理・保存等についての研究と、京都大学あるいは大学・高等教育の歴史に関する研究の二種類が考えられる。いずれにしても、その際には大学文書館の教員だけでなく、広い範囲の研究者の協力を得る必要があろう。また、研究の成果を著作、研究紀要、資料集等の刊行によって公開することも当然の業務といえよう。

そのほかに、広報や教育活動も大学文書館の業務としてあげられる。広報紙やホームページの作成はもちろんのこと、所蔵する資料に基づいた展示を行うことは社会に対して研究成果を公開する有効な手段であり、大学の存在意義をアピールするためにも有意義なものと思われる。また、自らの大学の歴史に関する講義も、すでに名古屋大学や九州大学で始められており、検討すべき課題として考えられよう。

おわりに

大学文書館は発足したばかりで、課題は山積しており、しばらくは試行錯誤の連続となろう。しかし、収集した資料の公開や、それをもとにした研究・教育・広報活動を行うことによって、大学文書館は日本近現代史の研究に寄与し、さらに継続的・恒常的な自己および第三者からの点検・評価に応じられる開かれた場となることが期待される。大学の多様化・個性化が求められている現在、このような役割をもった機関の必要性はこれからますます高まっていくのではなかろうか。

【表紙写真】 築50年を迎えた工学部1号館南棟

今春、工学部1号館の北に、新総合研究棟が完成しました。工学研究科1号館（8階建）や鶴舞キャンパスの医学部附属病院新病棟（14階建）にみられるように、この間名古屋大学ではキャンパス再開発が進められ、次々と高層新建築が建てられています。

ところで、新総合研究棟の南に近接する、工学部1号館南棟（表紙写真）は、今年3月で築50年を迎えた名古屋大学でもっとも古い建築物です。1951（昭和26）年3月に建てられたものですが、玄関周りは淡黄色のスクラッチタイル貼り、柱型を張出し、壁面に若干の凸凹をつけるなど、正面性を強調したネオ・クラシシズムに通じる意匠といわれています。

名古屋大学は古い伝統をもちながら、戦前からの建築物がなく、歴史を伝える建物景観があまりありません（詳しくは『名大史ブックレット2　名古屋大学キャンパスの歴史1（学部編）』―本ニュース9頁で紹介―を参照）。この点を改めて考えてみてはどうかということを、この建物は物語っています。

牧島久雄氏と「牧島メモ」
―史林遍歴（５）―

牧島久雄 氏

昨年２月10日、本学の職員OBであります牧島久雄氏が亡くなられました（享年88歳）。

牧島氏は敗戦後、名古屋大学旧教養部の前身である第八高等学校に化学の教授として赴任され、新制名古屋大学発足後もそのまま旧教養部で授業を受け持たれていました。ところが、1959（昭和34）年９月26日の伊勢湾台風の際、学生さんとともに被害救援に携わったのがきっかけで、翌年２月から学生部学生課長を兼任されることになりました。そして約１年後の1961（昭和36）年４月には教養部教員職の方は離れられ、新設された学生部次長の任に就かれました。その後、1975（昭和50）年３月までの14年間の長きにわたってその職を勤められました。名古屋大学退職後は中京大学で職務をされる一方で、愛知留学生会後援会・国際留学生会館等、この地方の外国留学生の生活支援活動にもご努力なされました。さらにお住まいになっていた地域の“まちづくり”にも積極的に参加されておられました。

牧島氏は、教員から職員へとその職務を変えられたという、大学人としてはきわめて希有な経歴をもっていた方でした。牧島氏の勤められた学生部次長（現在の事務局学務部長）は本来職員から任命されるべきものですが、名古屋大学の場合、初代は教員出身者であったということになります。また、現在学生生活を担当する副総長は教員から選ばれていますが、職員のみから構成される学務部とは機構上では切り離されています。しかし数年前までは、現在の副総長にあたる職務は学生部長と呼ばれ、同じ学生部という組織に教員と職員が一緒になっていました。さらに時代を遡れば、牧島氏のほかにも学生課長になられた教員の方がいます。同時に教員である学生部長もおられましたから、学生部には複数の教員がいたことになります。教員が職員の上司になることには問題のある面もありましょうが、一方で学生の指導・教育に対し、教員・職員の両者がともに一緒の組織で携わっていたことは、今あらためて見直されてもよいのかもしれません。名古屋大学では学生相談室等を拡大改組した「学生相談総合センター」が設置されました。牧島氏の経歴を鑑みるに、このセンターも上記の点を考慮に入れた組織内容であればと思います。

ところで、牧島氏は職員となられてからも研究を続けられていました。その研究対象は専門の化学ではなく、まさに職務である「学生生活」でした。たとえば「名古屋大学農学部学生のガイダンス」という研究を発表されています。これはアンケートの分析から、当時農学部があった安城の学部生活について知る必要があると指摘、実際に学部見学を行い、その結果を分析したものです。そのほかにも牧島氏は学生生活に関する数多くの研究業績を残されています。職員であっても、その職務において研究姿勢を自然にもっているということを示したものといえます。牧島氏のように教員出身でなくとも、研究姿勢をもった職員の方は今では学内に数多くおられます。たとえば中央図書館職員の島岡眞氏は、「『旧制学校一覧』所蔵目録について」を『名古屋大学教育学部紀要（教育学）1997年度』に発表されています。

このように牧島氏の事績をみてくると、大学というのは研究の場だけではなく教育の場でもあり、かつその教育・研究ともに、職員と教員とが協力して担っていくものであるという、基本的であたりまえのことなのですが、忘れがちでもあることに、改めて気づかされます。

くしくも現在名古屋大学は、教学院（教養教育院・資格教育院）の設置を構想しています（名古屋大学アカデミックプラン）。これはもちろん以前の教養部とは違ったかたちでの教育と研究のあり方と考えられますが、ある意味では教育重視の復活ともみることができるかもしれません。牧島氏が教養部出身であったことを考えると、意味深いものがあるのではないでしょうか。

もちろん、学部・大学院であろうが教学院であろうが事務局であろうがどこの職場にいても、「大学は教育と研究の場である」という「理念」は、教員であろうが職員であろうが誰もが、忘れずに常に心掛けておかなければならないことでしょう。これも牧島氏の事績が我々に伝えていることではないでしょうか。

牧島氏についてはさらにもうひとつ、是非ご紹介しておかなければならないことがあります。それは牧島氏が名古屋大学在職中にずっとつけられていたメモのことです。これは通称「牧島メモ」と呼ばれていたようで、大学ノートの小型版計206冊にも及びます。学生生活委員会を中心に、

さまざまな場におけるメモが記されています。実は亡くなられる直近まで欠かさず書きつづけられていたということです。

この「メモ」については、牧島氏が名古屋大学を退職された26年前に以下のような指摘がすでになされていました。

「牧島メモ」は有名であります。どのような会議、打合せ、講演会に出席されてもメモをとられます。先生のメモが信頼をおけますのでたびたび使わせていただきました。また、旧制高等学校から学生数の極めて多い現在の大学まで、終戦直後の混乱、朝鮮戦争、伊勢湾台風、安保、経済成長、紛争、インフレ、を経過した戦後の日本の大学の歴史が収められた貴重な記録であり、多くのことを物語っているものと思います。

(『生かされた証　名古屋大学学生部次長　牧島久雄退官記念論文集』における、名古屋大学第6代学長芦田淳氏執筆の「序」より)

もう1つ印象に残りますことは、どのような些細な打合せのときでも常に克明にメモをとられることです。これらがまとめられ肉付されてこゝに出版物を構成している書きものとなっているものも多いことと思われ、その中から我々は多くの示唆をくみとることができるように思います。同時に私などは、後になって詳細を伺へばよいという安心感が常にあって気楽に仕事を進めることができましたことを大変感謝しております。

(『同上』における、当時の名古屋大学学生部長斎藤肇氏執筆の「牧島先生の印象二点」より)

このように牧島メモは、当時の名古屋大学の問題を考える場合に、たいへん参考になる重要な資料と認識されていました。ましてや26年後の現在においては、今の、あるいは今後の名古屋大学の問題を考える際に重要であるというだけではなく、広く大学史という研究一般においても欠くことができないほどに、その歴史的資料価値も高くなっています。

現在このメモは、当資料室でお預かりしていますが、遺族代表牧島信一氏より寄贈の手続きを進めつつあります。ただ内容が、公文書の会議記録に以上に詳細なものであり、また個人のプライバシーにもかかわる部分もあるため、現在は非公開扱いにしております。そのため具体的内容についても、これ以上この場ではご紹介できないのが残念です。しかし、牧島氏がこのメモを残され、資料室に預けられたのは、いずれの時かこのメモが名古屋大学内外の方に役立ててもらいたいということも意図されてのことだと思われます。

学内公文書の情報公開が行われている現在、牧島メモを含めた、公文書に準ずるこれら歴史的資料も公開の方向で考えていかなければなりません。学内の歴史的資料の公開を全学的に責任をもって検討する時がきているのではと思われます。　　(神　谷　　智)

「牧島メモ」(一部)

受贈図書一覧（2000 年 8 月～ 2001 年 1 月）

鹿児島大学五十年史　鹿児島大学　8 月 7 日
核融合科学研究所ニュース No. 114
核融合科学研究所　8 月 17 日
東北大学百年史編纂室ニュース　第 6 号
東北大学百年史編纂室　8 月 18 日
早稲田大学史記要　第三十二巻　早稲田大学　8 月 22 日
京都大学ー研究・教育の現状と展望ー（2000）
京都大学　8 月 22 日
雑文抄
続雑文抄
上田良二先生を偲ぶ
Diffraction and Imaging Collected papers of
Proffesor Ryozi Uyeda　上村康裕　8 月 22 日
徳島大学五十年史　徳島大学　8 月 25 日
東京大学史史料室ニュース　第 24 号
東京大学史史料室　8 月 29 日
香川県立文書館だより　第 13 号
香川県立文書館　8 月 31 日
新潟大学五十年史　総編
新潟大学五十年史　部局編　新潟大学　9 月 1 日
教職員･院生版生協だより　かけはし No. 230
名古屋大学消費生活協同組合　9 月 8 日
拓殖大学百年史研究　5 号　拓殖大学　9 月 8 日
躍進する愛知医科大学　創立二十周年記念誌
愛知医科大学　9 月 11 日
四日市大学論集　第 13 巻　第 1 号
四日市大学学会経済学部部会　9 月 14 日
立命館大学国際平和ミュージアムだより
Vol. 8 － 1（通巻第 20 号）
立命館大学国際平和ミュージアム　9 月 20 日
九州大学大学史料室ニュース　第 15 号
九州大学大学史料室　9 月 20 日
大学創立 120 周年・図書館創設 100 周年記念
資料展　目で見る法政大学のあゆみ
法政大学大学史編纂室　9 月 25 日
九州大学大学史料叢書　第 8 輯
九州大学大学史料室所蔵史料目録
試行授業「大学とは何かーともに考えるー」
の記録
試行授業「大学とは何かーともに考えるー」
の記録（特別講義記録　1999 年 7 月 14 日
総長　杉岡洋一）
試行授業「大学とは何かーともに考えるー」
の記録（シンポジウム「大学における低年次
教育の意義ー試行授業を行ってー」）
『広島大学史紀要』第二号（二〇〇〇年三月）
抜刷　大学史編纂と史料収集・保存のあり方
について
九大広報　第 13 号
比較思想研究　第 26 号
日本教育史　往来 No. 126
西日本新聞（夕刊）2000（平成 12 年）
8 月 31 日付記事「九大風雪記」復刻
九州大学大学史料室　9 月 25 日
東京大学史史料室　東京大学史史料室　9 月 26 日
愛知大学五十年史　通史編　愛知大学　9 月 26 日
東京経済大学創立 100 周年記念特別展示
大倉喜八郎と東経大百年展示目録
東京経済大学　9 月 26 日
核融合科学研究所ニュース No. 115
核融合科学研究所　10 月 2 日
校史 Vol. 11　國學院大學校史資料室　10 月 2 日
野間研だより No. 3
財団法人　野間教育研究所　10 月 10 日
教職員･院生版生協だより　かけはし No. 231
名古屋大学消費生活協同組合　10 月 12 日
CREATE21 No.（拓殖大学創立百周年記念事業）
拓殖大学　10 月 16 日
日本学術振興会 30 年史　日本学術振興会　10 月 16 日
金城学院 110 年史　この 10 年のあゆみ 1990
～ 1999 年　学校法人金城学院　10 月 16 日
平成 12 年度日本学士院概要　日本学士院　10 月 16 日
それぞれの神戸大学教育学部ー回想でつづる
五十年ー　神戸大学教育学部　船寄俊雄氏　10 月 17 日
記念館だより　第 22 号
旧制高等学校記念館　10 月 23 日
新修　名古屋市史だより　第 18 号
名古屋市市政資料館　10 月 23 日
核融合科学研究所ニュース No. 116
核融合科学研究所　10 月 24 日
岩手大学五十年史　岩手大学庶務部企画室　10 月 30 日
立命館百年史　資料一　立命館百年史編纂室　10 月 30 日
教職員･院生版生協だより　かけはし No. 232
名古屋大学消費生活協同組合　11 月 13 日
中央大学百年史編集ニュース　第三十四号
中央大学大学史編纂課　11 月 16 日
大学資料集 '99　青山学院大学　11 月 16 日
新しい社会　新しい大学ー学校と社会の基本
的関係ー　神戸国際大学史資料第 1 集
創立者八代斌助師父の思い出　神戸国際大学

史資料　第 2 集
神戸国際大学大学史資料編纂室　11 月 16 日
サティア《あるがまま》第 40 号
東洋大学井上円了記念学術センター　11 月 20 日
核融合科学研究所ニュース No. 117
核融合科学研究所　11 月 29 日
金沢大学資料館だより　第 16 号
金沢大学資料館　11 月 29 日
獨協学園史 1881 － 2000
獨協学園史　資料集成　獨協学園　11 月 30 日
友好の絆 40 年のあゆみ An Account of
40 years of the Bonds of Friendship（名古屋・ロサンゼルス姉妹都市提携 40 周年記念誌）
友好の絆 20 年のあゆみ（名古屋・南京友好都市提携 20 周年記念）
名古屋市市長室国際交流課交流渉外係　11 月 30 日
清泉女子大学　創立 50 周年記念誌
清泉女子大学　11 月 30 日
法政大学 1880 － 2000　そのあゆみと展望
法政大学大学史編纂室　11 月 30 日
名古屋長者町織物協同組合創立50周年記念誌
名古屋長者町織物協同組合　12 月 1 日
水沢市立後藤新平記念だより　第 8 号
水沢市立後藤新平記念館　12 月 4 日
筑波大学前史資料調査室ニューズレター
第 3 号　筑波大学前史資料調査室　12 月 11 日
佛教大学報　第 50 号
佛教大学総合企画部総合企画課　12 月 22 日
同志社女子大学 125 年　同志社女子大学　12 月 25 日
神戸大学教育学部五十年史
圖録神戸大学教育学部五十年史
神戸大学教育学部　12 月 25 日
九州大学大学史料室ニュース　第 16 号
九大広報　第 15 号　九州大学大学史料室　12 月 28 日
野間研だより No. 4
財団法人　野間教育研究所　1 月 4 日
旅順工科大学開学九十周年記念誌　平和の鐘
旅順工科大学同窓会　1 月 4 日
人文論集　第 36 巻第 1 号
神戸商科大学経済研究所　1 月 4 日
九大広報　第 15 号　九州大学大学史料室　1 月 4 日
教職員･院生版生協だより　かけはし No. 233
名古屋大学消費生活協同組合　1 月 11 日
NEW FACES NAGOYA UNUVERSITY名古屋大学入学記念誌　2000 年 8 月（アルバム）
2000 名古屋大学卒業記念アルバム　2000 年 9 月
名古屋大学絵はがき
NAGOYA UNIVERSITY POSTCARD SET名古屋大学絵はがきセット
名古屋大学消費生活協同組合　1 月 12 日
茨城大学五十年史　茨城大学　1 月 12 日
核融合科学研究所ニュース No. 118
核融合科学研究所　1 月 15 日
立命館大学国際平和ミュージアムだより
Vol.8－2（通巻第 21 号）
立命館大学国際平和ミュージアム　1 月 17 日
Peace Archives―資料目録 Data Base―（CD-ROM）
戦時下日本の報道写真　梅本忠男写真集（CD-ROM）
立命館大学国際平和ミュージアム　1 月 19 日
京都大学百年史　資料編 2　京都大学　1 月 19 日
大学史資料室ニュース　第 5 号
大阪市立大学大学史資料室　1 月 24 日
第 15 回展示　保健体育科研究室の歩み
大阪市立大学大学史資料室　1 月 25 日

資料室日誌（抄）

8月 4日　神戸大学百年史編集室より、『名古屋大学五十年史』編集方法につき照会。
名大総務部総務課より、名古屋大学広報ビデオ作成のための資料につき照会。
8月11日　愛知県教育委員会職員より、名大附属医学専門部関連の学校につき照会。
8月14日　愛知県教育委員会職員より、名大附属医学専門部関連の学校につき追加照会。
8月17日　ワーキンググループ会議開催。
8月19日　神谷室員、湯沢市出張（21日まで）。
8月22日　上村泰裕氏、資料寄贈のため来室。
8月24日　元室員、資料閲覧のため来室。
8月25日　名古屋市市政資料館員より、資料複写につき照会。
9月 4日　名大施設部施設計画推進室員、資料閲覧のため来室。
9月 5日　名大総務部総務課事務員、文部省職員関係書類閲覧のため来室。
9月 6日　名古屋市市政資料館員より、資料複写につき照会。
9月20日　神谷室員、山口室員、西宮市神戸市出張（全国大学史資料協議会全国研究会、22日まで）。
9月26日　名大施設部施設計画推進室員より、他大学のプロフィールにつき照会。
9月27日　名大施設部施設計画推進室員より、資料室保管資料につき照会。
9月28日　名大施設部施設計画推進室員、資料閲覧のため来室。
9月30日　『名古屋大学史資料室ニュース』第9号刊行。
10月 3日　名大広報ビデオ作成担当者2名、資料閲覧のため来室。
元国立病院長他1名、資料室見学のため来室。
名大中央図書館事務員より、資料寄贈につき照会。
10月 4日　南山大学50年史作成小委員会室員より、新制大学発足直後の教員養成システムにつき照会。
10月16日　全学共通科目総合科目『日本の大学―近代日本と名古屋大学―』今年度授業開始。
10月19日　名大広報ビデオ作成担当者2名、写真資料撮影に関する件で来室。
10月20日　豊川市市史編纂室員より、大学史資料室webページの資料検索につき照会。
名古屋市市政資料館員より、資料複写につき照会。
名古屋大学史資料委員会（第14回）開催。
10月24日　名大附属図書館事務員2名、資料室見学のため来室。
10月25日　名大広報ビデオ作成担当者およびスタッフ、資料撮影のため来室。
10月30日　名大広報ビデオ作成担当者、資料複写に関する件で来室。
10月31日　牧島信一氏、牧島久雄氏所蔵資料に関する件で来室。
名大広報ビデオ作成担当者およびスタッフ、資料撮影のため来室。
『名古屋大学史資料室保存資料目録』第1集（名古屋大学関係分1）刊行。
11月 6日　元室員、資料室資料閲覧のため来室。
11月 9日　学外者より、第八高等学校の所在地につき照会。
11月10日　南山大学50年史作成小委員会室員より、全国大学史研究者リストにつき照会。
12月 6日　名大国際経済動態研究センター事務員より、資料寄贈につき照会。
12月20日　『名大史ブックレット1　これまでの大学院・これからの大学院』刊行
12月22日　南山大学50年史作成小委員会室員より、『名古屋大学五十年史・通史』作成につき照会。
1月 5日　東北大学記念資料館員より、名古屋大学史資料室利用規程につき照会。
1月12日　名古屋大学消費生活協同組合職員2名、入学・卒業記念アルバム制作に関する件で来室。
1月15日　インドの大学研究者より、名大教員につき照会。
1月16日　大阪市立大学大学史資料室より、『名古屋大学史資料室保存資料目録』作成につき照会。
1月18日　東京工業大学大学院学生より、名古屋帝国大学および名古屋大学創設につき照会。
名大総合保健体育科学センター教員、資料閲覧のため来室。
1月24日　国際交流基金研修生より、資料室見学につき照会。
1月23日　名大総合保健体育科学センター教員、資料閲覧のため来室。
1月25日　名大大学院学生、資料閲覧ため来室。
1月29日　韓国の大学図書館司書（現在、日本で日本語研修中）、大学史資料室の調査のため来室。

名古屋大学史資料室保存資料目録と名大史ブックレットを刊行

名古屋大学史資料室では、昨年 10 月末に『名古屋大学史資料室保存資料目録 1』を、また 12 月から本年 3 月にかけて『名大史ブックレット』を 3 冊刊行しました。

目録は大学史資料室が保存している資料のうち、名大前身校（医学部前身諸学校・八高・名高商・岡崎高師）・名帝大・旧制名大および新制名大のうち事務局や各部局に関するものを、「名古屋大学関係分 1」として収録しました。この目録が本学内外の様々な業務・調査・教育・研究などに、広く役立つことを望んでおります。今後は学内諸団体（学生自治会・職員組合・生協など）や他大学史関係、高等教育（史）に関わる資料目録を逐次刊行していくつもりです。

名大史ブックレットは、『これまでの大学院・これからの大学院』『名古屋大学　キャンパスの歴史 1（学部編）』『名古屋大学スポーツの歩み』という内容です。いずれも新入大学院生・新入学部生をはじめ、一般の学生・院生・教職員の方も対象として、名古屋大学の歴史を簡単にわかりやすく解説したもので、手軽に読めるものです。

なお、ここに御紹介した刊行物を御入用の方がございましたら、大学史資料室まで御連絡を下さい（連絡先は次頁下、なお目録については残部僅少です）。また大学史資料室では、名古屋大学に関係する資料を、学内外にかかわらず広く収集しております。本目録に収録されていない資料で、その所在をご存じの方がございましたら、これもまた大学史資料室まで御一報くださるよう御願い致します。

Nagoya University Archives

Nagoya University Archives(NUA) was founded in April 1996, as a inside measure in Nagoya University. NUA has its origins in the Office of the Compilation of the History of Nagoya University established in April 1985, which edited “Fifty Years History of Nagoya University”. The publication was planned as one of many commemorative works for 50th anniversary of Nagoya University.

NUA collects and archives all kinds of historical materials on Nagoya University. Its purpose is not only the collecting of the above materials, but the research on the history of Nagoya University, moreover that of higher education. NUA's holdings are institutional records, University of other publications, oral history collections, drawings, photographs, memorabilia collections, manuscripts, faculty papers and so on. NUA provides information and records created by, for, and about the University to faculty, staff,students, and the public for research.

The office consists of several teaching staffs of School of Education and School of Letters.

名古屋大学史資料室

室　　長　加　藤　鉦　治（教授・併任）

専任室員　神　谷　　智（助手）

　　山　口　拓　史（助手）

事 務 員　増　田　よしみ

題字　加藤延夫前総長

名古屋大学史資料室ニュース 第 10 号

Nagoya University Archives News No.10

発行日　2001 年　月　日（年2回刊）

編　集
発　行　名古屋大学史資料室

名古屋市千種区不老町〒 464-8601

電話 (052)789-2046

印　刷　株式会社荒川印刷

名古屋市中区千代田 2-16-38